

進路決定に向けて～コミュニケーション編～

今回は、「卒業後の進路先や支援機関」について書きましたが、2学期も引き続き「進路決定に向けて」という大きなテーマのもと、コミュニケーションや生活自立等について書いていこうと思います。ご一読いただけると幸いです。

さて、今回は「コミュニケーション」についてです。進路指導部にいると、コミュニケーションと聞くとまず初めに「挨拶」が浮かんできます。特に企業に行くと「挨拶が良い！」「会社の雰囲気が良くなった」「〇〇さんの挨拶はお手本です」と褒めていただくことがあります。挨拶は、どんな場であっても大切なコミュニケーションの手段となります。声の大きさや雰囲気でその日の体調や機嫌が相手に伝わります。もしかすると、そこで何か話を聞く必要があるかなどを支援する人が感じ取ってくれるかもしれません。我々も登校時の挨拶が、子どもたちのその日の体調や機嫌を知るバロメーターとなっています。挨拶は、人と人をつなぐだけではなく、お互いを理解し合えるツールだと言えます。声に出せなくても、サインを交わす、頭を下げる、目を合わせてアイコンタクトを送る、手段はたくさんあります。スモールステップで取り組んでいきましょう。また、コミュニケーションでよく上げられるのが、「ハウ・レン・ソウ」です。「報告・連絡・相談」の頭文字をとって「ハウ・レン・ソウ」と言います。高等部になると、実習の事前学習等でこの言葉の意味や実践の方法を学びます。卒業後、多くの生徒たちが直面するのが、困った時の「相談」です。困ったこと、悩んでいること、失敗してしまったということは、瞬時に頭の中でネガティブなことに切り替えられて、相談することを躊躇してしまいます。職員や上司の方に相談できず、それが積み重なって退所や退職に至るケースもあります。本人から困り感の発信があることで、次の対応に繋がっていきます。困ったという内容は、時には叱られてしまうような内容かもしれません。しかし、その状況を誰かに伝えられるということは、とても大切なことです。叱らずまずは話をしっかりと聞くという対応が重要になります。言葉での発信が難しくても、手を引いたり、その現場に連れて行こうとしたりと、相手に伝えようとする手段は個々によって違うでしょう。相談できた時には、「よく言えたね」と伝えてあげることも必要なかもしれません。できた時に「できました」と報告したり、アピールすることができるようになるように、困った時にも「困りました」と相談ができる人になってほしいと思います。ご家庭でも、本人が「何かに困っているな」と察知された際は、子どもたちからの発信を待ってみてください。



1 お知らせ

○宝塚市自立支援協議会より

先日アンケートを実施しました、「宝塚市合同事業所説明会」の日程が決まりましたので、お知らせいたします。詳細は、改めてお知らせいたします。

日程：令和3年12月5日（日）

